

令和4年度第2回八千代市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和4年11月16日(水)
開 会 午後2時00分
閉 会 午後2時40分
- 2 場 所 八千代市教育委員会庁舎2階 大会議室
- 3 出席者 【構成員】 市長 服部 友則
(敬称略) 教育委員会教育長 小林 伸夫
教育委員会委員 石井 伸一
教育委員会委員 須堯 福美
教育委員会委員 川嶋 一永
教育委員会委員 左海 尚子
- 【説明員】 教育次長 設楽 憲一
教育次長 山本 博章
教育総務課長 原 武司
学務課長 兒玉 健司
指導課長 高原 敬介
教育センター所長 池浦 一寛
保健体育課長 宮崎 幸子
生涯学習振興課長 齋田 忠徳
文化・スポーツ課長 米ノ井 正樹
- 【事務局】 企画部長 高宮 修
企画部次長 安原 信尚
企画経営課主幹 宮崎 敏則
企画経営課主任主事 石原 裕文

4 事務局説明

○事務局（宮崎主幹） 定刻となりました。会議開催にあたり事務局より会議についてご説明いたします。

この会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4に基づき、市長と教育委員会で構成する総合教育会議となります。本会議は、公開の会議となっており、本日は、現段階では傍聴者はいらっしゃいません。また、会議録作成及び記録のため、音声の録音及び写真撮影をいたしますので御了承をお願いします。

それでは、服部市長、よろしくお願いいたします。

5 開会

○服部市長 ただいまから令和4年度第2回八千代市総合教育会議を開会いたします。

会議の進行につきましては、八千代市総合教育会議運営に関する要領第3条第1項の規定により、会議の主催者であります、私が務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

会議の開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

6 市長挨拶

○服部市長 教育委員の皆様におかれましては、日頃より本市教育行政の推進にご尽力をいただいておりますことに感謝を申し上げます。

本日の議題は、「西八千代地区小中学校等対策検討委員会の検討結果」についてでございます。

この件につきましては、教育委員会において今後の児童生徒の推移についての調査を行い、現行の小学校では令和8年から令和10年頃に子どもたちの受入れができなくなるということで、教育委員会のみの問題として捉えるのではなく、八千代市全体として捉えるべきだろうということで、副市長をトップとした検討委員会において、企画部、財務部、子ども部、都市整備部、教育委員会と様々な分野にまたがって検討した結果がこのほどまとまりまして、議会にも報告をさせていただきました。

後ほど、事務局から詳細な説明があるかと思いますが、議題としては西八千代地区の学校問題、それ以外にも「その他」の項目がございますので、皆様の関心があるものがございましたら、ぜひ貴重な意見を頂きまして、八千代市の教育が少しでも良くなるように話を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上、冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。

7 議事録署名人の指定

○**服部市長** 続いて、議事録署名人の指定をいたします。私のほかに、左海委員、議事録署名人をよろしくお願いいたします。

○**左海委員** はい、承知いたしました。

○**服部市長** それでは、早速議事に入っていきたいと思えます。

8 議題1「西八千代地区小中学校等対策検討委員会の検討結果」について

○**服部市長** 議題1は「西八千代地区小中学校等対策検討委員会の検討結果」です。10月6日の検討委員会を経て報告書がまとまったということですので、今後の方向性など、説明をお願いいたします。

○**兒玉学務課長** 西八千代地区小中学校等に係る対策につきましては、市長の指示により、本年4月から10月にかけて、副市長を長とした検討委員会を5回、教育次長を長とした検討部会を4回開催いたしました。

これらの会議では、学区変更、学校増築、学校新設、既存施設活用の4つを軸とし、いくつかの対応策を組み合わせることも含め、特に対応が急がれる小学校を優先して、あらゆる可能性を否定することなく検討してきました。そしてこの度、報告書に当面の方針という形でまとまった次第です。

詳細につきましては、報告書で確認をお願いしたいと思いますが、最終的に定まった方針を簡単にご説明いたしますと、小学校については、「現段階では、地権者の協力が見込める旧遊技施設跡地に校舎を建設することとする。土地や施設の規模等を踏まえ、より良い教育環境を保障する視点に立ち、新設の小学校として設置するほか、新木戸小学校と一体的な運営とすることなども含めた検討をする。」と定まりました。

どのような学校をどのような方法で建てるかにつきましては、今後検討していくこととなります。将来的に、児童数が減少したときのことも含め、教育委員会内で庁内検討委員会、及び八千代市通学区域審議会等を開催し、学校の規模、設備、通学区域等の詳細を急ぎ検討していく予定でございます。

中学校については、「現段階では、課題解決に時間を要する選択肢や、状況により結果が左右される選択肢を排除せず、あらゆる可能性について引き続き検討することとする。」と定まりました。今後も副市長を長とした全庁横断的な組織である西八千代地区小中学校等検討委員会において、継続的に検討される予定となっております。

○服部市長 以上、報告がございましたが、この件についてのご意見・ご質問がありましたらお願いします。なお、学務課長の話に入っていませんでしたが、まずは小学校を優先し、中学校については少し先の話となりますが、その間もそこまで時間的な余裕があるわけではございません。小学校は結果をまとめておりますが、引き続き中学校をどうしていくかという話も並行した形で進めていくと思いますので、またその都度この会議で報告させていただきたいと思います。

それでは、川嶋委員。

○川嶋委員 西八千代地区小中学校等検討委員会の報告書を拝見したのですが、あらゆる可能性を否定することなく検討してきたとお聞きしております。様々な検討をしてくださって、いろいろなご苦勞があったのではないかと感じておりますが、小学校建設の方針が定まったことが一番いいことだと思っております。子どもたちにとって、より良い環境を整えるために、市長部局と教育委員会の2者がまとまって検討されたということで、そういった指示をした服部市長にまず感謝を申し上げたいと思います。

そこで質問したいのですが、副市長をトップとした検討委員会で市長部局と教育委員会が連携して検討をされてきたと思うのですが、部局間でどのように連携して検討を進めてきたのか、お聞きしたいと思うのですが。

○服部市長 教育委員会、お願いします。

○兒玉学務課長 西八千代地区の対策を検討する際、例えば検討部会では次

のような連携がなされました。学区変更による通学路を検討する場面では、都市整備を司る建築関係の部門や、子どもたちの安全を司る教育委員会保健体育課からの見解を重ねて議論しました。また、学校新設を検討する場面では、学校の運営や設備等を検討する教育委員会の関係課はもちろん、市全体の各種計画との整合を図る企画の部門、予算に関わる財務の部門などが連携を図り、案を練ってきたという次第です。

○川嶋委員 市長部局を含め何課ぐらいで対応してきたのですか。

○兒玉学務課長 部の方で申し上げますと、企画部、財務部、子ども部、都市整備部、教育委員会が参加しております。そしてその下に専門部会として検討部会が設定されましたので、今申し上げた部の各課が関係課として協力して議論が重ねられたところです。

○服部市長 他に質問や意見はございませんか。はい、石井委員。

○石井委員 2点ほどお願いします。新しい校舎が建設されるということですが、どんな学校づくりをする予定でいるのか、というのがまず1点。新木戸小と一体的な運営というと、一つの学校で校舎は別々の場所となりますが、こうした学校運営を行っている自治体の事例はあるのか、その辺を教えてもらいたい、というのが2点目です。

○兒玉学務課長 新しい校舎の建設に伴い、どんな学校づくりをするかということですが、新たな校舎が建設される予定の土地は、現状ではあまり広くありません。そこで、学校の運営については、新設の小学校としての設置に加えまして、付近の新木戸小学校と一体的な運営を含め、これから教育委員会内において庁内検討委員会を設け、定めていく予定となっています。

次に、先進的な事例があるかというお話ですが、千葉県内で現在こういった対応を取っている事例はございません。少し調べたところ、神奈川県横浜市で同じような例がございます。その地区は、西八千代地区と同様に、児童数が急増しました。そこで、当初は新しい小学校を建設する予定だったのですが、地域住民等からの要望で、新しい小学校として設置するのではなく、元からある学校の分校舎のような形で対応し、児童数が減少する局面でその校舎はたたんで、元の学校の校舎のみに子どもたちが通う、という形に決まったと聞いております。

また、一つの学校であるのに校舎が別、という事例ではありませんが、千葉市においては、新設の小学校を設置するのですが、将来的に児童数が減少した時点で他の学校と統合することを最初から定めている、といった事例があります。

○服部市長 今回の石井委員の質問に関連して、今までは新しい学校に新設というか枝分かれしていきますよね。分離校といいますか。私が生まれる前ぐらひの話で、市内には分校というのがよくあったと聞いているので、意外と古い資料などに、分校時代どのようにしていたかというヒントがあるような気がします。例えば阿蘇小学校の保品分校とか、3年生までは分校にいたけれども、4年生から本校に通うとか、そういう柔軟な運用を実際に八千代の教育の中でやっていたらしいので、それが大いに参考になると思います。これから検討するときに、古い文献などを参考にされるといいのではないかなと思いました。

○兒玉学務課長 はい、承知いたしました。

○石井委員 今までの慣例に従うだけではなく、新しいことにチャレンジしてほしいというか、新しい形が出来上がってもいいのではないかなと思うので、柔軟に子どもたちを第一に考えてもらうことが大事です。

○服部市長 新しい学校には運動場はないんですよね。

○兒玉学務課長 現在報告書の段階で定まっておりますのは、分校のような一体的な運営も含め検討するというところでございますので、現状では小学校の建設も含み今後検討するということになっています。今のご質問は、グラウンドはないんですよね、ということだと思いますが、そのことも含めて今後どのようにしていくか、それが子どもたちの豊かな教育環境を確保することにつながるかを検討していく、ということでございます。

○服部市長 待ったなしの状況になると思うので、課題解決に向けての検討はこれから大変だと思いますが、よろしく願いいたします。

○兒玉学務課長 はい、承知いたしました。

○服部市長 あとは何かございますか。はい、左海委員。

○左海委員 より良い教育環境の確保という観点でいうと、校舎を建設するという対応はいつ頃までに行う必要があると考えているのか、教えてく

ださい。

○兒玉学務課長 みどりが丘小学校の児童数については、推計によりますと令和8年度には現状の教室数では収まらない見込みであることがわかっています。そこで、令和7年度中の完成を目標として目指すところであります。今後、教育委員会内で庁内検討委員会を立ち上げ、子どもたちへの豊かな教育環境の提供という視点に立ち、学校の規模や教育課程、将来的に児童数が減少した時のことなども含めて検討していく予定です。

○服部市長 今後に向けては、教育委員会だけで検討していくことになるんですかね。

○兒玉学務課長 庁内の検討委員会で検討を進めまして、それから全庁横断的な組織であります検討委員会とも連携を図る形になるのではないかと考えています。

○服部市長 左海委員よろしいでしょうか。はい、須堯委員。

○須堯委員 この4月に阿蘇米本学園が開校して、よかった、ほっとしたという感想を教育委員の1人として思ったところでした。そして今回、西八千代地区小中学校等検討委員会の報告書も見させていただいて、かなりご苦勞なさって今日まで至って、これからも大變だと思えます。これまでの苦勞について、取り上げたらきりが無いと思うのですが、いかがでしたでしょうか。

○兒玉学務課長 上半期中に方針決定を目指すというスケジュールでありましたので、定められた短い期間において、全庁横断的な組織の中であらゆる可能性を否定することなく検討するのは、簡単ではありませんでした。

しかし、本件は喫緊の課題でありましたので、市長の指示により副市長を長とした大きな組織で検討を行うものであったため、事務局としましても慎重かつ丁寧に進めながら、4月から10月にかけて委員会と部会を計9回開催し、迅速かつ集中的な議論を行ってきたところです。

○須堯委員 これからもご苦勞は続くと思いますが、阿蘇米本学園も素晴らしい学校環境となり、今度また素晴らしい夢の話が沸いてきましたので、引き続きよろしく願いいたします。

○服部市長 さきほどの左海委員の質問にもありましたが、令和7年度までには校舎が立ち上がるという期限の決まっていることですので、教育委員会

は本当に大変だと思いますけど、将来を担う八千代市の子どもたちの教育が掛かっていますので、ぜひやりがいのある仕事として捉えて頑張っていたきたいなど、市長として切実に思っておりますので、よろしくをお願いします。

あと何かございますか。よろしいでしょうか。

それでは、令和7年度に向けて教育委員会が中心となって、全庁横断的に子どもたちの教育のために全力を尽くそうということを共通認識として持たせていただいて、この議案についての議論を終わりにしたいと思います。

9 議題2 その他

○服部市長 教育委員の皆さんの中から、その他の問題について何かご指摘がありましたら、挙げていただければと思います。はい、須堯委員。

○須堯委員 阿蘇米本学園についてです。開校式では、出席させていただきましたありがとうございます。その時の子どもたちの様子を見て、素晴らしいスタートを切れたかと密かに喜んでいたのですが、その後の学校の状況はいかがでしょうか。

○兒玉学務課長 その後の状況ということで、2点ほどお話させてください。まず直近で申し上げますと、11月5日（土）に小学校1年生から4年生に相当する児童たちによる秋の運動会が行われております。阿蘇米本学園を象徴する一つの場面として、1年生から4年生の子どもたちに加え、5年生から9年生の子どもたちが参加した、全校・全児童生徒・全職員による、じゃんけん列車というプログラムがあったんですけれども、皆が一つになることを実感できた、感動的な素晴らしいプログラムだったと聞いております。それから2点目としまして、10月に浦安市校長会及び浦安市教育委員会による視察が行われております。特に浦安市教育委員会の視察では、私も同行させていただきましたのですが、教育委員の方から「施設は新しいものではないが、子どもたちや先生方の生き生きとした姿に触れることができ、学校生活で大切なことは何であるかについて気付かされた」との声も頂き、好評を得たところです。

○須堯委員 うれしいご報告ですね。

○服部市長 その分、嶺岸校長先生も大変だと思いますけれど。

○須堯委員 市が一体になって応援して、育まれている学校っていう感じがします。うれしいことですね、ありがとうございます。

○服部市長 どうぞ、左海委員。

○左海委員 市長が出席された校歌制定記念式典について、学校や子どもたちの様子について、どのように感じられたか教えてください。

○服部市長 阿蘇米本学園は事ある度に足を運ばせてもらっていて、特に校歌制定の時は、1時間ちょっとあったと思うのですが、1年生がずっとまっすぐ前を向いていて、1年生から9年生まで、この学校を良くしていこうという雰囲気伝わってきました。あと新設校とか新しい学校が出来上がるとしばらくは校歌がないということが続くのが常らしいのですが、半年で校歌が出来上がったというのが一つ驚きでしたけど、イタリアのステファノさんという方が作ってくださいました。カンツォーネのような曲が出来上がるのかなと思って聞いてみると、やはり前奏がすごいんですよ。ところが校歌の部分になったら変調となって普通の学校の校歌のようになって、また間奏になるとすごい迫力で。あの校歌は本当に歌いやすいだろうし、おそらく阿蘇米本学園で育った子が高校に行ったら、自分の学校の校歌を自慢するんじゃないかなと、そんな気がいたしました。皆さんは、校歌は聞かれましたか。

○川嶋委員 1回だけ前奏は聞きました。

○服部市長 本当にあの校歌は、自慢する子どもたちがいっぱいいると思いますね。ステファノさんも自分で作った曲が校歌になって、自分の子どもが通う学校の校歌になるという高揚感があったみたいですし、本当にすごい場面に立ち合わせてもらったなと思いました。

はい、では川嶋委員。

○川嶋委員 市長のおかげで、通学支援バスが運行されていますけれど、いま安全性がかなり重視されてきています。現在、教育委員会の方が同乗されていると聞いていますが、それがずっと教育委員会の方がずっとその通学支援バスの補助を続けられるのは大変難しいんじゃないかと思います。やはり委託業者さんが管理をしてもらわないといけないのかなと。それに関して予算も掛かると思うんですけども。事故があってからでは遅いと思うので。

各方面からバスが出ていますし、かなりの人数が必要になってくるんじゃないかと思うんですけども、安全確保のためにはいろいろと苦労があると思うんですよね。やはり安全を重要視した形できちんとやらないといけないし、教育委員会も市長部局も連携した形で、ある程度予算化していかないといけない部分でもあります。教育委員会と市長部局で、一番安全な策を考えて進めてもらいたいと思うんですよね。

○服部市長 通学支援バスについては、子どもの置き去りに気が付かなくて熱中症で亡くなってしまった事件が発生していて、通学支援バスに対する安全性は大丈夫なのか、という話も出ています。半年ぐらい続けてみて、今の体制でいかがですか。

○宮崎保健体育課長 通学支援バスにつきましては、全部で4コースを設定し運行しております。学園の先生方やPTA、地域のボランティアの方々の見守り活動等のご協力を頂きながら、教育委員会としましても、職員が登下校時にバスへ乗車し、安心安全な運行に努めております。今のところ、そのような置き去りのような事例はございません。なお、教育委員会の職員がバスにこの先も乗車するということは持続可能ではないことから、来年度以降、会計年度任用職員が登下校のバスに乗車し、対応できるよう予算要望をしているところです。

引き続きより良い運行ができるよう、学園とは綿密に情報交換を行ってまいりたいと考えております。

○服部市長 会計年度任用職員を配置することも1つの方法でしょうけれども、バス事業者に専門の方がいるので、その方に乗ってもらって、その分予算を付けるっていう方法もあると思いますので、いろんな方法を考えて、お金が掛からないというのではなくて、通学支援バスに乗車する子どもたちに万が一のことがないように、そのためにはどうすればいいかという提案をぜひ市長部局の方にさせていただければと思いますのでよろしく願いいたします。

○宮崎保健体育課長 承知いたしました。

○川嶋委員 子どもたちの安全が一番です。

○服部市長 これクローズアップされると思うんですよ。関心も高いと思

いますので。今のうちに議論をしておいた方がよいと思います。何かあってからでは大変です。

あと何かありますか。はい、石井委員。

○石井委員 阿蘇米本地域の跡地利用について、統合が決まってもう3～4年たって、新設校ができるのと同じくらい跡地をどうするかは大事にしなければいけない話だと思います。いろんな話をしていると思うのですが、これだけ時間がたってある程度目途がついたのか、その辺を教えてもらいたいなと思います。

○事務局(宮崎主幹) 統廃合された3校の跡地活用につきましては、現在、財務部資産管理課が所管となって検討を行っておりますので、事務局よりお答えいたします。検討につきましては、昨年度から行われており、保護者へのアンケートや民間事業者等に対するサウンディング型市場調査を行っております。また、今年度は7月から9月にかけて、地域にお住まいの方にも加わっていただき、5回のワークショップを開催して、避難所等の継続を前提とした維持向上に関する意見交換等が行われております。今後につきましては、ワークショップ等での意見などを踏まえ、改めて民間事業者へのサウンディング型市場調査等を行い、検討を進める予定となっております。なお、廃校となった3校は地域の避難所となっておりますが、その機能につきましては、現在も維持されており、今後も地域の避難所として利用を続けられることを前提として活用を検討することとされております。

○石井委員 ありがとうございます。社会体育の団体もありますし、災害が起きた場合利用しなきゃいけないと思うので、それはずっと体育館は残してもらいたいと思います。米本・米本南・阿蘇の各小学校の歴史もありますし、以前ワークショップの資料を見せてもらったときに、似ているんだけど、一つひとつ違いがあるなっていうのを感じました。地域ごとの色もありますので、意見を聞きながら進めてもらうのが一番いいと思います。例えば、阿蘇小学校は150年ぐらい歴史のある小学校で、八千代でも和田小の次に古い小学校になっていた。その地域の人たちの拠り所だった小学校が移転した。そのことを認めてくれた地域の人々の気持ちをちゃんと

くみ取って、あの場所に150年続いた小学校があったということ、これから未来の子どもたちにわかるように残してほしいと思います。いろいろなお店とかやりたい意見もあってそれも良いとは思いますが、敷地のどこかに阿蘇小学校記念館のような、そういう歴史のわかるものを残さないといけないんじゃないかなと思ひまして、ケヤキの木と同時に、これはきちんと残してほしい、と要望としてお願いしたいと思ひます。

○服部市長 石井委員の意見はすごく大事だと思ひます。確かに、小中一貫校で賛否両論あった中で、反対していた方たちは、自分が生まれて育った学校がなくなってしまうというのが一番辛かったはずなので、自分が通った学校がいま阿蘇米本学園に生まれ変わっていますが、ここに自分が通った学校があったんだ、みたいなその地域の皆さんに思い出してもらえような手立てというのは必要だと思ひます。企画部で頑張っただけで考えていただければと思ひます。

○川嶋委員 僕は村上小学校卒業なんですね。村上小学校は村上団地に行っちゃって、今まで通っていた学校がなくなっちゃったのはやはり寂しい感じがしますよね。たまたま村上小学校は、郷土博物館という形で残されていて常に行くことができるので、僕も良かったと感じています。名前も村上小学校として残っていますので。やはりなくなるのは寂しいです。村上小学校は元々、正覚院が基本の形で始まっていて、文化財50周年の式典のときに村上小学校の歴史の話をした際に、ここが村上小学校の始まりの地であることを知らない子がたくさんいたんですね。阿蘇小学校の場合も、名前も残して、ずっとそこに阿蘇小学校があったんだって形で残すのが一番大事なんじゃないかと思うんですね。それも基準の一つにしてもらえればいいかなと思ひます。

○服部市長 とても大事だと思ひます。確か以前に、郷土博物館自体が収集物を含めて手一杯で、そこだけじゃ手狭だという意見があったので、今日、教育委員の方からそういう歴史のある学校を何かの形で残せないかという話が出たということの一つの起爆剤にして、阿蘇小学校の校舎もしくは体育館を、第2の郷土博物館のような形で、収集物を集めておく場所にするとか、何か学校があったんだ、というものを残す一つとして、検討してく

ださい。よろしく申し上げます。

その他、何かございますか。せっかくの機会ですので。はい、左海委員。

○左海委員 東八千代調理場についてです。新しく開設され、竣工式には市長も出席され、中の様子などもご覧になりました。2学期が始まり、給食の提供が始まっております。その後の運用状況などについて、事務局からいろいろ報告は伺っておりますが、市長もおられるので、改めて状況などを教えていただきたいなと思います。

○服部市長 私も関心があるので、ぜひ報告してください。

○宮崎保健体育課長 東八千代調理場では、9月2日から、小学校7校・中学校4校・義務教育学校1校の計12校に給食の提供を開始いたしました。同時に、西八千代調理場と同様、食物アレルギー対応食の提供も始めました。食缶や食器が変わったため、最初はスムーズな配膳ができるか心配もありましたが、先生方が事前に配膳の画像等を見て児童生徒に指導したり、リハーサルを通して現物を確認したりしたことで、問題なく配膳することができております。児童生徒や先生方からは、食器が変わって食べやすくなった、食器の絵柄がかわいい、箸が毎日付いている、給食が温かくなった、などの感想をいただいています。また、調理場の従業員からは、最新の施設で労働環境がとても良くなり、作業効率も上がった、汚染区域・非汚染区域が明確になり、より衛生的に作業ができるようになった、などの声が聞かれます。

開設から2か月が経過し、調理、配送とも、おおむね順調に運用しております。今後、3学期の給食の提供に向けて、児童生徒や先生方に、アンケートを行いたいと考えております。

○服部市長 これでアレルギー問題が全部解消されるという安全面がまず大事だなと思っていたのですが、子どもたちから、美味しい、温かいといった、給食に付加価値が付いたことに対する喜びの声があがったことは非常にうれしいなと思いましたので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。他に何かございませんか。せっかくですので。よろしいですか。

それでは事務局、その他何かあれば。

○事務局（宮崎主幹） 最後に事務局から、次回の会議についてでございます。今年度はここまで2回、5月と11月に開催させていただきましたが、

次回の議題・日程等としましては、今のところ明確なものがないので、事務局で調整を取りまして、委員の皆さまと日程調整をさせていただければと思います。

○服部市長 そうすると、次回の総合教育会議までに、西八千代地区の検討は間に合いそうですか。

○事務局（宮崎主幹） その部分が議題になるかと思います。委員の皆さまへ報告させていただくことがあれば、その段階で日程を調整して開催する形となります。

○服部市長 今度の開催は令和5年度ということですね。

○事務局（宮崎主幹） そのように考えております。

○服部市長 令和7年度までに新校舎を作らなければいけない、ということになると、令和5年度の第1回総合教育会議あたりで、新しい校舎がこんなふうになりますというのは、ある程度発表できそうですか。

○事務局（宮崎主幹） 教育委員会の方で内容を検討しておりますので、まともになりましたら情報提供していただきまして、この会議に諮るかどうか検討したいと思います。

○服部市長 はい、それでは令和5年度の次の総合教育会議がいつぐらいになるかはわかりませんが、それまでに期限が決まっている新しい小学校の話がある程度この議題になれるように、教育委員会で頑張ってください、議題を提出してください。

10 閉会

○服部市長 それでは、以上をもちまして、令和4年度第2回八千代市総合教育会議を終了いたします。どうもありがとうございました。